

平成 23 年度版

# 愛知の観光振興施策の実施状況

(平成 22 年度年次報告書)

本書は、愛知県観光振興基本条例第9条第6項の規定に基づき、愛知県観光振興基本計画に定められた観光振興に関する施策の平成22年度の実施状況に関する報告を行うものです。

## 目 次

<b>第1 愛知の観光の現状</b> .....	1
1 観光旅行者の満足度 .....	2
2 県内宿泊者数及び東アジア4か国・地域からの宿泊者数 .....	3
(1) 県内宿泊者数 .....	3
(2) 東アジア4か国・地域からの宿泊者数 .....	3
3 経済的・社会的効果 .....	4
(1) 経済的効果(観光消費額) .....	4
(2) 社会的効果(観光ボランティアガイド数) .....	5
<b>第2 平成22年度における主要な観光振興施策の実施状況</b> .....	6
1 観光資源の発掘・商品化の支援 .....	6
2 プロモーション活動の強化 .....	6
3 旅行者受入体制の充実 .....	8
4 広域観光の推進のための連携強化 .....	9
5 東アジアからの誘客の推進 .....	10
6 MICE(イベント、コンベンション等)の戦略的な誘致 .....	11
<b>第3 平成23年度の主要な観光振興施策</b> .....	12
(参考)愛知県観光振興基本計画推進委員会 .....	14



## 第1 愛知の観光の現状

愛知県観光振興基本計画において、計画期間中(平成22年度～27年度〔6年間〕)の目標として掲げた5つの指標の現況は、次表のとおりであった。

	指 標	目 標 値 (平成27年)	計画当初	現 況
1 観光旅行者の満足度の向上	観光旅行者の満足度	25%	16.3% (平成21年)	19.4% (平成22年度)
2 観光交流人口の拡大	(1) 延べ宿泊者数	1,500万人	1,048万人 (平成20年)	1,122万人(注1) (平成22年)
	(2) うち東アジア4か国・地域(中、台、韓、香)からの延べ宿泊者数	150万人	49万人 (平成20年)	59万人(注1) (平成22年)
3 観光と地域社会の発展	(1)(経済的効果) 観光消費額	1兆円	5,300億円 (平成20年)	5,700億円(注2) (平成22年度)
	(2)(社会的効果) 観光ボランティアガイド数	3,000人	2,202人 (平成20年1月)	2,806人 (平成23年1月)

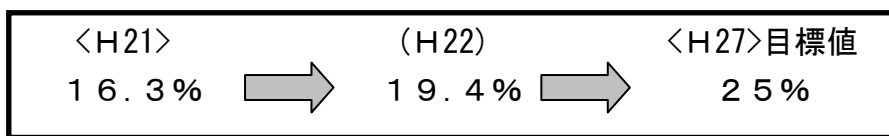
(注1)「平成22年の延べ宿泊者数」は、観光庁から確定値が提供されていないため、暫定値(年間の新設・廃業施設等のデータを反映させる前の数値)を使用。

(注2)「平成22年度の観光消費額」は、観光庁の全国共通基準による観光入込客統計の推計方法に基づき算出しているが、観光庁から平成23年1月～3月期の宿泊者数データが提供されていないため、その部分については、重回帰式により算出した推計値を使用。

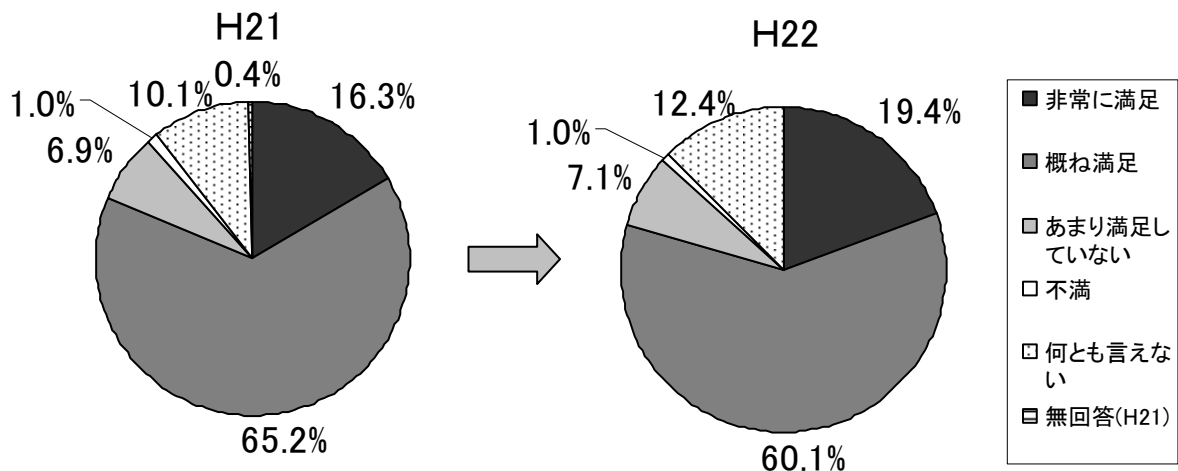
また、全国共通基準による観光入込客統計には、県外からの日帰りビジネス目的で、観光地に立ち寄らない者が含まれているが、この推計では、観光地に立ち寄った者のみを算入。

# 1 観光旅行者の満足度

- 愛知県を訪れる観光旅行者の満足度については、県内観光地で実施するアンケート調査(注)において、「非常に満足」と回答する観光旅行者の割合を 25%とすることを目標としている。
- 平成 22 年度のアンケート調査では、19.4%となり、平成 21 年の 16.3%から、3.1 ポイント上昇した。
- 同アンケート調査で、「不満に感じた点」としては、「道路が渋滞している」が最も多く、不満を感じた点について回答した者の 30.5%。次いで、「観光地での駐車場が足りない、未整備」が 18.2%と、前回調査と同様の傾向となっている。



<図 1 満足度>



<表 1 不満に感じた点（上位 5 項目）>

不満に感じた点	割合
道路が渋滞している	30.5%
観光地での駐車場が足りない、未整備	18.2%
観光資源・施設に魅力がない	15.4%
観光地のトイレが不備	11.0%
買う気になる土産品が少ない	9.7%

資料)愛知県「観光振興基本計画管理調査」(平成 22 年度)

(注) 県内 10 箇所(名古屋城、東山動植物園、明治村、木曾三川公園 138 タワーパーク、中部国際空港見学者、刈谷ハイウェイオアシス、香嵐渓、道の駅どんぐりの里いなぶ、ラグーナ蒲郡、豊川稲荷)において、四半期ごとの休日に、聴き取りによるアンケート調査を実施。

## 2 県内宿泊者数及び東アジア4か国・地域からの宿泊者数

### (1) 県内宿泊者数

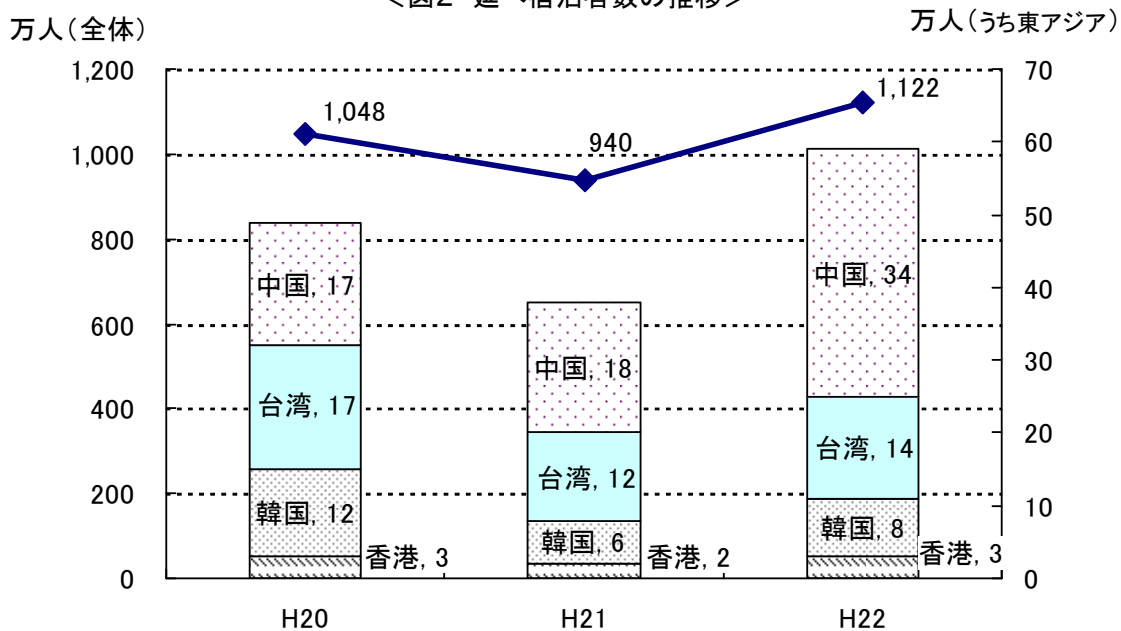
- 県内延べ宿泊者数(外国人宿泊者を含む)については、これを1,500万人とすることを目標としている。
- 平成22年には1,122万人となり、平成20年の1,048万人から、74万人増加したものと推計される。(注)

### (2) 東アジア4か国・地域からの宿泊者数

- 東アジア4か国・地域(中国、台湾、韓国及び香港)からの延べ宿泊者数については、これを150万人とすることを目標としている。
- 平成22年には59万人となり、平成20年の49万人から、10万人増加したものと推計される。(注)
- このうち、中国からの宿泊者数は、34万人と最も多く、平成20年の17万人から2倍になっている。

<H20>	(H22)	<H27>目標値
[県内延べ宿泊者数] 1,048万人	1,122万人	1,500万人
[うち東アジア4か国・地域] 49万人	59万人	150万人

<図2 延べ宿泊者数の推移>



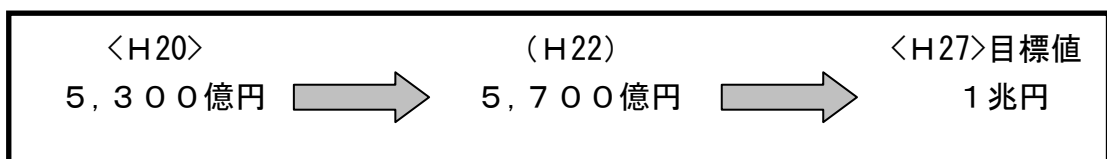
資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

(注) 従業員数10人以上の施設の延べ宿泊者数。平成22年は、観光庁から確定値が提供されていないため、暫定値(年間の新設・廃業施設等のデータを反映させる前の数値)を使用。

### 3 経済的・社会的効果

#### (1) 経済的効果（観光消費額）

- 県内観光地で実施するアンケート調査〔P2(注)〕において、県内での観光に係る消費金額(宿泊費、交通費、飲食費、土産物代等)に、県内旅行者の実人数を乗じて算出する観光消費額を1兆円とすることを目標としている。
- 平成22年度には5,700億円となり、平成20年の5,300億円から、400億円増加したものと推計される。(注1、2)
- その内訳としては、県内在住の旅行者が2,600億円、県外在住の旅行者が2,600億円、訪日外国人が500億円となっている。



<表2 県内旅行者の観光消費額（平成22年度）>

単位:百万円

	宿 泊	日 帰 り	合 計
県内在住者	47,101	209,854	256,955
県外在住者	164,257	94,495	258,752
訪日外国人	51,273	93	51,366
合 計	262,631	304,442	567,073

(注1)全国共通基準による観光入込客統計の推計方法に基づき算出しているが、観光庁から平成23年1月～3月期の宿泊者数データが提供されていないため、その部分については、重回帰式により算出した推計値を使用。

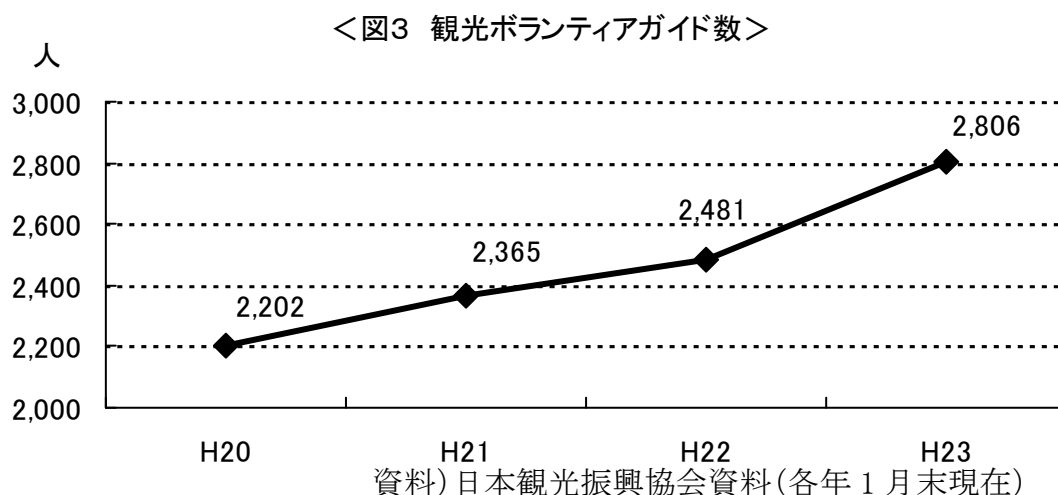
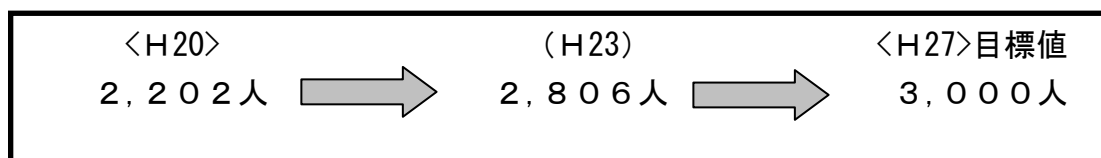
また、全国共通基準による観光入込客統計の推計には、県外からの日帰りビジネス目的で、観光地に立ち寄らない者が含まれているが、この推計では、観光地に立ち寄った者のみを算入。

(注2)算出に使用している観光庁提供の宿泊者数データは、平成20年時には従業員数10人以上の施設を対象としていたが、平成22年4月からは、従業員数10人未満の施設を加え、全宿泊施設を対象。



(2) 社会的効果（観光ボランティアガイド数）

- 観光ボランティアガイド数は、これを 3,000 人とすることを目標としている。
- 平成 23 年 1 月末時点の観光ボランティアガイド数は 2,806 人となり、平成 20 年 1 月末時点の 2,202 人から、604 人増加した。観光ボランティアガイド数は、平成 19 年以降、全国第 1 位となっている。



<表3 主要都道県の観光ボランティアガイド数（平成 23 年 1 月末現在）>

順位	都道県名	ガイド数(人)	組織数
1	愛知県	2,806	63
2	北海道	2,213	65
3	山形県	1,696	80
4	東京都	1,640	26
5	兵庫県	1,456	68
全国計		42,560	1,713

資料) 日本観光振興協会資料

## 第2 平成22年度における主要な観光振興施策の実施状況

施策	内容	担当課室
<p>1 観光資源の発掘・商品化の支援</p>	<p>○観光事業者、ボランティア等を対象とする「あいち観光まちづくりゼミ」を開催し、地域資源を活かした旅行商品の開発を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ生:45名</li> <li>・観光コースツアー4回(豊根村始め4地区(11月~1月))、フォーラム1回等</li> </ul> <p>○地域との連携の下、隠れた観光資源を発掘し、それを活用した一般客向けモニターツアーを実施することにより、旅行商品の開発を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山里の自然、食、祭り等をテーマとして、計11回</li> <li>・参加者371名(稲武始め5地区(7月~2月))</li> </ul> <p>○歴史観光のシンボルである名古屋城の歴史的・文化的価値と魅力を高めるため、名古屋市が行う本丸御殿の復元工事を支援した(一部経費を助成)。</p>	<p>観光コンベンション課</p>
<p>2 プロモーション活動の強化</p>	<p><b>【武将観光】</b></p> <p>○信長・秀吉・家康の三英傑ゆかりの地や関連イベントを紹介するパンフレットを作成し、テーマ別モデルコースのPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成部数:計148,000部</li> </ul> <p>○平成21年度に選定した「武将のふるさと愛知100選」を元に、テーマ別に戦国武将ゆかりの史跡を巡る「武将のふるさと愛知スタンプラリー」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:9月11日~12月5日</li> <li>・参加施設数:63施設</li> <li>・記念品応募者数:5,138名</li> </ul> <p>○「愛知ゆかりの武将講座」を開催し、武将観光ブランドの浸透、武将観光地への誘客を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数:1回</li> <li>・参加者数:830名</li> </ul>	<p>観光コンベンション課</p>

施策	内容	担当課室
	<p><b>【産業観光】</b></p> <p>○県と(社)愛知県観光協会のホームページ「あいちの産業観光」において、産業観光施設やモデルコースを紹介した。</p> <p>○愛知、岐阜及び三重の3県が連携して、「産業観光スタンプラリー」を開催し、産業観光施設への誘客を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:7月17日～9月30日</li> <li>・参加施設数:218施設(うち愛知県78施設)</li> <li>・総入場者数:29,368名</li> </ul> <p><b>【街道観光】</b></p> <p>○東海道沿線の6市(名古屋、豊明、知立、岡崎、豊川及び豊橋)との連携の下、古い町並みを活かしたウォーキングイベント「東海道キャンペーン トコトコ東海道」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:9月1日～11月30日</li> <li>・参加者数:延べ4,728名</li> </ul> <p><b>【都市観光(グルメ)】</b></p> <p>○県と(社)愛知県観光協会のホームページ「愛知グルメ図鑑」において、「名古屋めし」や郷土食等のグルメ情報を発信するとともに、同協会で、グルメや土産品を紹介したパンフレット「うみやあ亭」を作成し、愛知の食をPRした。</p> <p><b>【知多半島観光圏】</b></p> <p>○観光圏整備法に基づき国の認定を受けた「知多半島観光圏協議会」の取組を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある観光地の形成のため、知多半島内観光関係者を対象として、アドバイザーによる講演会(1回)と意見・情報交換を実施</li> <li>・知多半島を訪れる観光客に対するアンケート調査を実施し、「観光圏整備実施計画」に掲げられた課題や解決策について検討</li> <li>・知多半島全域での観光資源の発掘や、観光イベント、県外へのキャラバン活動を実施</li> </ul>	<p>観光コンベンション課</p>

施策	内容	担当課室
	<p><b>【情報発信】</b></p> <p>○祭りなど、四季折々のイベントを紹介するパンフレット「愛知の魅力あるイベント」を作成するとともに、(社)愛知県観光協会のホームページで紹介し、愛知の多彩なイベントをPRした。</p> <p>○市町村等が行う観光展・イベントの開催、情報発信等に対して必要な経費の一部を助成し、県内観光地の魅力の発信を支援した。</p> <p>・助成件数:9件</p> <p>○県産品アンテナショップ「ピピッと！あいち」において、各地の特色ある商品(生鮮食品、加工食品、工芸品等)を展示・販売した。併せて、県内外の観光物産展への出展を通じて、県産品の情報発信、販路拡大とともに、愛知の観光をPRした。</p>	観光コンベンション課
3 旅行者受入体制の充実	<p>○「おもてなし愛知県民会議」を立ち上げ、県全体で、おもてなしの気運の醸成を図った。 (設置:平成22年12月 参加団体数:行政、観光関係団体、観光事業者、商工団体、地域住民団体 102団体)</p> <p>・同会議のシンボルマーク(ロゴ)を募集</p> <p>・同会議の下に、「外国人観光客部会」を発足させ、多言語表示など、外国人観光客の利便性向上に向けた情報交換を実施</p> <p>○観光ボランティアガイドを対象とする「産業観光あないびと育成研修」を実施し、地域における産業観光の受入体制の充実を図った。</p> <p>・研修会開催回数:2回</p> <p>・参加者数:延べ89名</p> <p>○(社)愛知県観光協会内に、「訪日教育旅行推進センター」を設置し、県内学校との調整など、受入体制を整備した。</p> <p>・設置:平成22年8月</p> <p>・中国を始めとする5か国計43校4団体(2,103名)を受入</p> <p>○市町村が行う観光案内板、トイレ等の施設整備に対して、必要な経費の一部を助成し、県内観光地の利便性、快適性の向上を図った。</p> <p>・助成件数:7市町村 11施設</p>	観光コンベンション課



施策	内容	担当課室
5 東アジアからの誘客の推進	<p>○中国(南京市)において、プロモーション活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地旅行会社との商談会の開催(15社)</li> <li>・現地学校関係者を対象とする教育旅行説明会の開催(20校)</li> <li>・商品造成をする旅行会社に対する現地新聞への広告掲載を支援(4回)</li> </ul> <p>○2010上海国際博覧会に参加し、「愛知県ウィーク」を開催した。この中で、県民団体等によるステージ催事を支援するとともに、愛知の観光についてPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:7月31日～8月5日</li> <li>・場所:日本館イベントステージ、アジア広場</li> <li>・来場者数:約72,000名</li> </ul> <p>○シンガポールにおけるエアポートセールスに合わせ、現地の航空会社、旅行会社等を対象として、愛知の観光を紹介するセミナー・レセプションを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日:10月26日</li> <li>・場所:サンテック・シンガポール国際会議展示場</li> <li>・参加者数:62名</li> </ul> <p>○シンガポール旅行博(NATASトラベル2011)へ出展し、愛知の観光のPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:2月25日～27日</li> <li>・場所:シンガポールエキスポ</li> <li>・来場者数:約66,000名</li> </ul> <p>○「中部広域観光推進協議会」及び「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」を通じて、海外でのプロモーション活動を実施した。《再掲》</p> <p>○愛知の観光資源を紹介する多言語パンフレット・観光案内地図を作成し、東アジアに向けて、本県観光のPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成部数:(中(簡体・繁体)・英 各22,000部、韓18,000部)</li> </ul>	<p>観光コンベンション課</p> <p>航空対策課 観光コンベンション課</p> <p>観光コンベンション課</p>

施策	内容	担当課室
	<p>○(社)愛知県観光協会のホームページに、愛知の観光地を動画で紹介する「愛知県観光動画シアター」(中(簡体・繁体)・韓・英)を作成し、東アジアに向けて、本県の魅力を発信した。</p> <p>○(社)愛知県観光協会内に、「訪日教育旅行推進センター」を設置し、県内学校との調整を行うなど、受入体制を整備した。《再掲》</p>	観光コンベンション課
6 MICE(イベント、コンベンション等)(※)の戦略的な誘致	<p>○COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)会場への来場者(会議参加者、一般来場者、ボランティア)、宿泊事業者等に対して、アンケート調査を実施し、国際会議の開催効果や会議参加者等の消費額、会議開催上の課題等を把握した。</p> <p>○MICE誘致推進の基礎資料とするため、県内の大学、研究機関を対象に、国際会議の開催状況について、また、市町村を対象に、全国規模のイベントの開催状況について、それぞれ調査した。</p> <p>○COP10の開催に際して、警備協力等の開催支援とともに、会議参加者向けの視察旅行や、ブースでの観光PRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:10月11日～29日</li> <li>・会場:名古屋国際会議場</li> <li>・会議参加者数:約13,000名</li> <li>・連携・交流事業:白鳥地区、愛・地球博記念公園、栄オアシス21 &lt;来場者数:約932,000名&gt;</li> </ul> <p>○「あいちトリエンナーレ2010」を開催し、24か国・地域から参加した131組のアーティストの制作による現代美術作品の展示、パフォーミング・アーツ、オペラの公演等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間:8月21日～10月31日</li> <li>・会場:愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場 他</li> <li>・来場者数:約572,000名</li> </ul> <p>※「MICE」とは、企業などが行う会議(Meeting)、企業が行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際会議(Convention)、イベント、展示会・見本市(Event/Exhibition)の頭文字のこと。</p>	<p>観光コンベンション課</p> <p>COP10支援室</p> <p>国際芸術祭推進室</p>

### 第3 平成23年度の主要な観光振興施策

東日本大震災の風評被害対応のための施策を推進するとともに、知事マニフェストに沿った観光振興施策を実施する。

#### 1 観光プロモーション推進体制の確立

##### ○観光プロモーションプロジェクトチームによる観光振興施策の推進

中京独立戦略本部の下、県と名古屋市による「観光プロモーションプロジェクトチーム」を設置する。その中で、観光振興施策の課題について検討を行い、施策を推進する。

#### 2 観光資源の発掘・商品化の支援

##### ○着地型旅行商品の開発促進

「あいち観光まちづくりゼミ」において、ゼミ生が企画した観光コースツアーに、一般客も参加させ、その意見を活用することにより、さらに魅力のある観光コースの商品化を促進する。

##### ○地域提案公募による観光の振興

地域の観光関係団体から、環境観光、グリーンツーリズム、ベイツーリズムなど、地域資源を活用したツアー造成やイベント開催の企画を公募し、その中から、特に事業効果の高い企画の商品化を支援する。

#### 3 プロモーション活動の強化

##### ○観光キャンペーンの展開

官民一体となって、PRイベントの開催や旅行会社に対するPR活動など、観光キャンペーンを展開し、内外からの観光客の拡大を図る。

##### ○ホームページによる情報発信

「あいちの産業観光」や「愛知グルメ図鑑」など、ホームページを活用し、愛知の魅力を発信する。

#### 4 旅行者受入体制の充実

##### ○おもてなし愛知県民会議の活動の推進

「おもてなし愛知県民会議」の下に設置した「外国人観光客部会」において、観光施設のホームページ、パンフレットの多言語化など、外国人観光客の利便性向上に向けた取組の普及について情報交換等を行う。また、「国内観光客部会」を発足させ、国内の旅行者の利便性向上に向けた検討を行う。



## 5 広域観光の推進のための連携強化

### ○他県等との連携による観光プロモーション活動等の実施

「中部広域観光推進協議会」や「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」の活動を通じて、国内外での観光展への出展、周遊コースの造成支援、現地旅行会社の招聘、セミナーの開催等により、内外からの観光客の拡大を図る。

## 6 東アジアからの誘客の推進

### ○中国を対象とするプロモーション活動の実施

個人観光ビザ発給の要件が緩和され、今後、訪日観光客の増加が見込める中国からの誘客を推進するため、江蘇省(南京市)及び浙江省(杭州市)において、商談会を中心としたプロモーション活動を実施する。

### ○台湾を対象とするプロモーション活動の実施

「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」が主体となり、台湾において、現地旅行会社が行う家康ゆかりのツアー造成を支援するなど、プロモーション活動を実施する。

## 7 東日本大震災に伴う風評被害等への対応

### ○東アジア向け観光プロモーションの実施

風評被害により減少する東アジアからの観光客を呼び戻すため、韓国及び中国の政府観光局、有力旅行社、マスコミ等に対し、愛知が安全であること及びその観光の魅力をPRする。

### ○地域提案公募による観光の振興《再掲》

地域の観光関係団体から、地域資源を活用したツアー造成やイベント開催の企画を公募し、事業効果の高い企画の商品化を支援する。

## 8 MICE（イベント、コンベンション等）の戦略的な誘致

### ○愛知・名古屋MICEアクションプラン（仮称）の策定

本県内におけるMICE開催状況、主催者のニーズを把握するとともに、関連事業者(会議施設、旅行会社、ホテル等)の意向を聴取し、地域が一体となって取り組む「愛知・名古屋MICEアクションプラン(仮称)」を策定する。

### ○国際会議・大規模イベントの誘致・開催

「国連ESD(持続可能な開発のための教育)の10年最終年会合」(平成26年開催)等の誘致活動や開催準備を行う。

(参考)

愛知県観光振興基本計画の議会への報告及び公表に当たり、下表の委員で構成する「愛知県観光振興基本計画推進委員会」を設け、本基本計画に基づく施策の実施状況や今後の施策展開に対する意見をいただいた。

愛知県観光振興基本計画推進委員会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属・職名
伊藤 陽朗	社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
井上 雅	社団法人愛知県観光協会専務理事
長谷川 二三夫	公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー 専務理事
(委員長) 森川 敏育	桜花学園大学人文学部観光文化学科教授
山本 勝子	日本福祉大学知多半島総合研究所副所長
山本 正雄	名古屋市市民経済局文化観光部長

平成23年度版愛知の観光振興施策の実施状況

(平成22年度年次報告書)

平成23年10月発行

愛知県産業労働部観光コンベンション課

〒460-8501名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6353(ダイヤルイン)

ホームページ:<http://www.pref.aichi.jp/kanko/>